

第36回生駒市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和8年2月16日(月) 午後4時00分～午後5時15分

2 場 所 生駒市役所 4階 大会議室

3 協議事項

(1) 生駒市幼稚園再編に係る基本方針の策定について

4 市側出席者

市 長 小 紫 雅 史

5 教育委員会側出席者

教育長	原 井 葉 子		
委 員 (教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	中 川 義 三
委 員	吉 尾 典 子	委 員	友 岡 清 一

6 事務局職員出席者

教育部長	松 田 悟	教育部次長	南 口 嘉 子
教育指導課長	花 山 浩 一	幼保こども園課指導主事	長 崎 文
幼保こども園課指導主事	牧 野 由 美	こども園準備室長	澤 辺 誠
教育政策室(書記)	佐 竹 裕 介	教育政策室(書記)	前 田 絵三子

7 傍聴者 3名

午後4時00分 開会

○開会宣告

○市長挨拶

小紫市長：本日の議題は、幼稚園の再編について。歴史がある幼稚園が非常に多く、地域の方の支えや公立幼稚園に対する信頼をいただいている中ではあるが、園児数が激減している状況で、子どもたちのためにどう対応していくのかをしっかりと考えていかないといけない時期が来ている。パブリックコメントの結果を受けて、今日は様々なご意見をいただきたい。

○協議事項

(1) 生駒市幼稚園再編にかかる基本方針について

- ・パブリックコメントの結果及び基本方針案についてを澤辺こども園準備室長から説明【資料1】【資料1(別紙)】【資料2】【資料3】

飯島委員：建設時は幼稚園、保育園がそれだけ必要な状況であり、行政の財政的にも余裕があったため、幼稚園、保育園の運営を拡大することができたが、現状としては、子どもたちや働き盛りの世代も減少しており、財政的にも厳しいと感じている。子どもたちの成長と教育を第一に考えていただいた非常に慎重かつ丁寧な再編計画であるという印象を受けた。

吉尾委員：教育要領にうたわれている生涯にわたる人格形成のための教育とはなにかと改めて考えさせられた。幼稚園では、年齢や発達に応じた経験をさせてあげたいと思う。幼稚園の朝の遊びで自分がしたいことを選び遊ぶということが大事である。子どもたちがクラス全体で一つの活動をするということも大事だが、自分で選び色々な人と関わって、失敗や喧嘩等の色々な経験をするのが、子どもの生涯にわたる人格形成に大きく影響すると思っている。少ない人数であればクラスの活動は充実するかもしれないが、朝の遊びの場では、そこで1人で遊ぶ子もいれば10人集まることもあると思うが、少なくとも3人で遊べるコーナーが5つぐらいはあるべきである。そのために、同じ学年の子どもたちが15人はいると思う。遊びの中で試行錯誤や共感をし、力を合わせて何かをやろうということを経験していくことが大事だと思う。子どもたちが楽しい活動の中で自然と学び取っていくということが幼稚園の本来の姿であると思っている。家庭的な保育を望まれる保護者の方の思いもわかるが、将来にわたっての人格形成という意味では、子どもの遊びでの学び、子どもの集団性を思うと、人数は必要であるという思いがある。保護者や地域の方に協力をしていただかないといけないこともあると思うが、それがまず大事であると思っている。民間への移行について不安に思われていること

も大きい課題である。壱分幼稚園が民間として実際に保育を始める際に、よかったと思ってもらえるように公立が力を貸していかないといけない。研修をしているだけではなく、実践して研究をしているところが幼稚園の強みである。幼稚園は子どもたちが帰った後の時間があり、そこに充てる余裕があったというところも大きい。実践や公開保育、紙面での実践発表により、自分の保育を調査・分析して、子どもたちに返していくスキルを公立園は持っている。そのスキルを移行の際にどのように展開し継承していくのかを明らかにしていきたい。それが保護者の安心にも繋がっていくと思う。地域の問題や小学校との連携、配慮の必要な子どもへの対応など、きめ細かく丁寧に検討していきたい。

小紫市長：少人数の方がきめ細やかな教育につながるという意見は確かによく出てくるが、そうではないということをご指摘いただきありがたい。今後同じ思いで説明をしていきたい。壱分こども園でどのような教育をしていくかは、民間に任せきりではなく、園長先生の会や研修、実践さらに研究を一緒に行っていく仕組みを整え、公私連携型のこども園の好事例として確立させ、他園に広げていきたい。公立と私立の違いの不安感が先に立ってしまうことは仕方ないが、しっかり説明して不安を取り除いていきたい。都度ご指導いただきたい。

中川委員：600人規模の大規模な園で過ごしていた時代と違い、国の施策や家族のあり方も変わっている。共働きで子どもたちを近くに預けたいという方が増えたために、保育園や私立園ができた。大規模な一つの園に遠くても預ける、という形ではなく、少人数で近くにあげられるという形になっており、民間公立関係なく温かい雰囲気での保育が進められている、そういう時代に入ってきたのかと思う。新しい時代に合った保育園・幼稚園を考えていかなければいけない。子どもたちが幼児期を温かく楽しく過ごし、保護者の方たちにとっても使いやすい園であるためには、ある程度の人数の園があちこちにあるということが大事である。地域の子どもたちが大きくなり、ニーズがなくなった建物のその後の使い道も課題になる。重点的にお金を投入して大きな建物を維持するのではなく、ある程度の規模の園を各地で設置する必要がある、今の市の計画でよく考えられていると感じた。桜ヶ丘に私立の保育所を入れることについても、例えば保育も受けられる上に給食も食べられるということであれば、新しい形で園が生き返る。そのように、それぞれの園を様々な様式に変えていくことで、新しい時代の新しい育て方を実現できればと思う。

友岡委員：パブリックコメントの数から大変関心があると感じた。その中で、この先どうなるのかという不安の意見が多かった。見通しが立たないから理解できないといった不安が大きい。小規模と大規模、両方の園に通わせていた保護者として意見を申し上げると、どちらの園でも先生は非常に熱心してくれて

いた。方針の中にそういった実際の保護者の声を盛り込んでもらえれば不安な部分も解消されるのではないかと感じた。これから色々とアップデートされる中で、保護者や地域の方の不安を全て解消してもらえればより良いものになるのではないかと。生駒市と民間業者の連携についても、民間にすべてお任せではなく、行政と民間が両輪でうまく回っていくような形で保育園や幼稚園が運営できれば素晴らしい教育施設になるのではないかと感じた。

小紫市長：いただいたご意見を踏まえてやっていきたい。第二章の各園ごとの方針について、明日の教育委員会や保護者の意見もいただきながら、基本的な大きな方向性は、現行の方針で進めていきたい。個別園の部分で何か質問はあるか。

飯島委員：あすか野幼稚園については、十分に協議するという文言がある一方で令和11年閉園と時期が確定されている。閉園時期までに協議が整わなかった場合、どうなるのか不安に思われるのでは。閉園を決めておいて納得していただくという形ではなく、協議を経た上で閉園ということがあり得るといったような文言に改めることで少し不安が解消するのではないかと。

澤辺室長：あすか野幼稚園については、来年度の新入園児数が少ない。来年度入園予定の方と現在年少児の方の保護者については懇談の機会を設けているが、その中で一番気にしているのは園児数であり、基本方針においても現在通っている園児が卒園できるよう考えているが、一方で、これ以上人数が少なくなった場合、小学校に入るタイミングでは何十人と学級に入っていないといけないため、その際、どう考えられているのかも改めて相談させてもらいたい。そういった議論の中で、あすか野幼稚園がなくなった時にはどういう希望を持っているか話をしているところである。あすか野幼稚園の閉園時期について考えていくという段階でもまだないというところから、こういう記載となっている。

飯島委員：保護者にとっては行き場がなくなるのではないかと不安が一番大きいと思うので、話し合いの中で提案いただく形で進めていただきたい。

小紫市長：新たに入園する子どもに対して、卒園まで残っていることを示すために令和11年という表記をしている。来年の入園児が年長になる時には新しい園児は募集せず閉園となる。あすか野幼稚園は園児の減り方が他の対象となっている園と比べても劇的であり、今後もその状況が改善されないことが見えているため、令和12年以降も継続するという選択肢が見出しにくい。他の園と一緒にいる可能性も探っているが、方向性は見えておらず、単独の幼稚園として残すことは難しいことがある程度ははっきりしているため、このような表記となっている。

松田部長：民間事業者と結びつかなかった場合でも、どこにも通えなくなるという訳ではなく、通園バスを走らせることで通園の保証をするほか、どうしても公立園でということであれば生駒台幼稚園も残っているため、繋げて活かしてい

きたい。

吉尾委員：長期休みも朝も預かり保育をする等、これだけ預かる時間を増やしているにも関わらず、幼稚園の園児数が増えなかったのはなぜなのか。アンケートで入園前の保護者の方から制度について知らなかったという意見があったので、どうやって周知していくのか、今後の施策があれば教えていただきたい。

南口次長：待機児童が現在増えてきている。保育コンシェルジュで相談いただく際に預かり保育を紹介し幼稚園を案内しているが、働いている方は保育園を希望されることが多い。待機児童について分析した結果、すべての方がフルタイムで働いている訳ではなく、時短勤務やパートタイムの方もいるため、そういう方に幼稚園の入園を検討いただけないかと考えている。幼稚園での週二日程度のお弁当給食を3月議会で予算として挙げており、お弁当給食や預かり保育によって、園児数の増加と待機児童の減少を目指している。今後も、様々な分析をした上で、世帯の助けになるような施策と周知をしていきたいと考えている。

吉尾委員：再編になって公立園がなくなっていくかもしれないが、今いる子どもたちが少しでも豊かな経験を積み重ねてほしい。そのために一人でも多く幼稚園教育を視野に入れてもらい、幼稚園に入ってくれることを切に願っている。

小紫市長：公立幼稚園のニーズがなくなっていると割り切って、全てを保育園や私立幼稚園にするという話も聞く中で、全ての公立園をなくすということは今のところ考えていない。幼稚園を視野に入れていない保護者の方も多いと思うが、比較的フレキシブルな働き方ができる保護者の方に幼稚園を活用いただくことで、待機児童の解消にもつなげていきたい。

飯島委員：生駒台や桜ヶ丘は自動車でのアクセスの悪さが影響しているのではないかと。南こども園のように駐車スペースを確保して子どもを連れてきやすくなると、幼稚園を選択肢に入れることができるのでは。あるいは通園バスを検討することは可能か。

松田部長：生駒台幼稚園についてはその部分が大きいと考えている。令和元年に幼稚園の再編の話が出た際にも、俵口幼稚園と生駒台幼稚園を統合してこども園化する案があったが、地域一帯で通行規制が敷かれており、登園時に車の出入りをする事ができなかった。そういったこともあり、生駒台幼稚園については公立幼稚園として高みを目指してもらおうということで、存続している。通園バスについては公立園で実施しているので、ニーズに応じて有効的に活用したい。

小紫市長：生駒台幼稚園については園児数も多い。全部の幼稚園でバスを走らせることは難しいが、必要な幼稚園には検討する。

吉尾委員：小学校との接続や連携について評価いただいているコメントもあり、嬉しく思う。生駒市内の全園から小学校に進学する可能性もあるので、再編のこと

についても、市内全小学校にも現時点から徹底周知してもらえればありがたい。

松田部長：先日校長会で、パブリックコメントが終わり、策定に向けて動いていることを報告した。園に通っている子どもたちがどこの学校に行くのか、住所地を把握したうえで進学先の小学校と繋ぐような交流を持つ取組もされている。学校側からもアクションを起こせるような動きを取っていきたい。

吉尾委員：園訪問で、校長先生だけでなく担任の先生が見学に来るようになったと聞いている。小学校側も繋がっていかないといけないという思いをしっかりと持ってくれているようでうれしく思う。そういう動きを市内の全小学校で広めていき、幼稚園でどういう力がついているのかということをお小の先生方に実感してほしい。

小紫市長：そういった各園で柔軟に対応している良い部分について、公私連携型だけでなく、広く浸透していくよう丁寧に進めていきたい。

中川委員：園から小学校へも、小学校から園へも訪問を依頼して、交流することが増えていると感じる。教育委員会から話していただくことで、必要性が分かってきたのかと思う。幼稚園へ行くと子どもたちの育ちがどのように育まれているのかがよくわかるということが、小学校でも理解が進んでいるのでは。なばた幼稚園に私立保育園が入るのはどうかという話が出ていたが、幼稚園と保育園の交流がなかった頃には、保育園は保育、幼稚園は教育に取り組んでいたのが、研修などで交流するようになってからは、小学校の入学に向けた幼保小の連携が進められている。このように幼稚園の教育的に目指すところと保育が上手く重なって、今の時代に合った教育ができるということをお今後広報できれば、不安が拭えるのではないか。

小紫市長：課題感やこうすればもっと良くなるというところは修正をしていきながら、この方針に基づいてやっていく。また明日の教育委員会でも整理いただいたうえで、よりよい形で進めていきたい。

○閉会宣告

午後5時15分 閉会